

**11/2^土
開催!**

→大会詳細はP.4へ

平均速度

約50km/h

※チームタイムトライアルレースの場合



©Yuzuru SUNADA

第10回

ツール・ド・フランス さいたまクリテリウムと さいたま市の軌跡



- オフィシャルロゴが入ったラベルのメモリアルワインを限定販売。
- レースの模様を全世界120か国以上で放送。現在は190の国と地域で放送している。

2014

海外選手との文化交流

- 海外メディアも多数取材に。
- 本家ツール・ド・フランスの優勝者も参加!
- 海外からの出場選手への文化交流会を実施。



サイクルフェスタ・さいたまるしえ

自転車に関するイベントのほか、大画面でのパブリックビューイングを実施!
けやきひろばでは、本場フランスや地元さいたまの“食”が楽しめるイベントを同時開催!



2013 ▶

2013 START

「さいたまクリテリウム
by ツール・ド・フランス」
の名称でスタート。

クリテリウムって?

短いコースを周回するレースのこと。今年のメインレースでは1周3.6km×17周、全長約60kmのコースを走る。



©Yuzuru SUNADA

さいたま
新都心駅

今年で第10回を迎える「J:COM presents 2024 ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」。2013年に世界で初めて、世界最高峰の自転車レースである「ツール・ド・フランス」の名を冠してスタートしたこの大会と、
“自転車のまち”さいたま市の軌跡を辿ってみましょう!



©A.S.O._Pauline_Ballet

今月の市報さいたまプラス
今大会の
見どころはココ!



自転車のまちさいたま市としての取り組み

2014▶

市内の自転車通行
環境整備路線を
大幅拡大!



16km
(2014年)

216km
(2023年)



2017▶

さいくろ
ステーション

自転車に乗る方が気軽に休
憩できる「さいくろステー
ション」を認定。

2018▶

シェアサイクル普及
事業実証実験の開始

ポート数は大幅増加!

142箇所 (2018年11月)

453箇所
(2024年7月)

自転車事故の減少

1,677人▶1,123人
(2014年) (2023年)

2024▶

電動サイクルの
シェア開始



2月から、ペダルを漕がずに
走行できる電動サイクル
のシェアを開始。

スプリントレース
初開催

4人1組のレースを開催
(2019年まで)。



さいたま
スーパーアリーナ

2017

一般参加型ライドイベント
「Road to さいたま
クリテリウム」初開催

優勝選手を大会当日のタイム
トライアルレースに招待。

2018

日本人選手が初優勝



©Yuzuru SUNADA

メインレースを
あらしめるゆきや
制した新城幸也
選手。

2019

新型コロナウイルスの
影響で開催見送りに。

2020・2021

3年ぶりの開催

サイクルフェスタでは
過去最高2万8,067人
の来場を記録。

2022

累計大会来場者が
100万人を突破!!

市内の経済効果は
累計69億円に。

2023

4賞のジャージ
獲得者が勢揃い



©Yuzuru SUNADA

2016

パラサイクリング選手が初参加

- 7組8人のパラサイクリング選手が個人タイムトライアルレース等に出場!
- 「J:COM presents ツール・ド・フランスさいたまクリテリウム」に名称変更。

2015

「ツール・ド・フランス・
サイクルシティ」ラベル

- ツール・ド・フランスを主催する団体から、ヨーロッパ域外の都市で初めて、本市が「自転車を促進するための計画的な政策を持つ自治体」の認定を受けた。



- 2024年は初めてさいたまスーパーアリーナのメインアリーナを通過! 迫力の走りをお楽しみに!

2024